

主役は俺だー 2022年秋・2部編

■富樫 司 (とがし・つかさ)	室蘭工業大	RB/LB	2年
■川島大和 (かわしま・やまと)	北海道科学大	WR/LB	1年
■小池知成 (こいけ・ともなり)	北海道医療大	WR/QB/DB	3年
■市村脩渡 (いちむら・しゅうと)	札幌学院大	OL/DL	3年
■小金龍東 (こがね・りゅうと)	札幌大	RB/DB	4年

初めて合同チームが登場する今年の2部。部員不足で単独チームを組めなかった北海道科学大、北海道医療大、札幌学院大、札幌大の総勢26人が、室蘭工業大と2試合を行う。1部復帰に燃える室蘭工業大、苦境を乗り越えてグラウンドにたどり着いた合同チームの面々。注目選手得を紹介する。

室蘭工業大は2年生ながらエースRBの富樫司(工学部創造工学科)がラン攻撃を引っ張る。札幌清田高ではラグビー部。174センチ、80キロの鍛え込まれた体と脚力で、1年生の昨年も選手権の全2試合に先発出場した。「RBはやりたかったポジション。1年生で試合に出してもらったが、全然ヤードを稼げなかった。ボールを持っているだけだった」と満足していない。

2020年の選手権を新型コロナウイルスの影響で棄権したが、特例で1部に残留した室蘭工業大。昨年もコロナ禍に再び巻き込まれて、トーナメントの選手権1回戦を棄権し、順位戦でも1部初昇格の釧路公立大に0-63。入れ替え戦でも2部優勝の東京農業大に0-29で敗れた。室蘭工業大の6年ぶりの1部は、

コロナ禍に翻弄されて2年間で1勝も上げることも無く終わった。

先輩たちの無念さも胸に、巻き返しを期す今季。富樫の好走もあり、春季オープン戦は1勝1分けと着実にチーム作りが進む。「体幹の強さは自信がある。1人のタックルでは倒れない」と自信も深めた。「去年、今年とまだTDを取ったことがない」と残念がりながら「去年の悔しさをぶつけて前に出る。TDを取る。入れ替え戦でもがっつりと前に出る」と宣言した。

北海道科学大の川島大和(工学部都市環境学科)は、岩見沢西高野球部の先輩でもある千葉悠太主将(4年)に誘われて入部した。新入生2人を合わせて10人の今季。捕球センスを買われて早くも出番が回ってきた。札幌大と合同チームで室蘭工業大と対戦した7月のオー

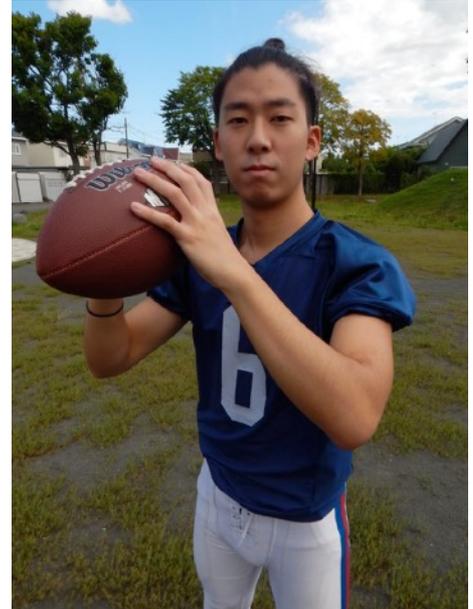


ブン戦にWRで先発し、初キャッチを含む2キャッチで先輩たちの期待にこたえた。「雨の中で取りにくかったが、QBが投げってくれた。ボールを取ったときはうれしかった。タックルの恐怖も無かった」と初々しい言葉が口をついた。

4校の合同チームで臨む選手権では「相手の予想を上回るプレーをしたい。WRがパスを取ればチームが盛り上がる」と自らの役割を果たすつもりだ。「11人全員で取り組むおもしろさがアメフトの魅力。科学大のアメフトの楽しさを、プレーを通して伝えたい。来年はもっと人数を増やして強くなりたい」と先も見据える。

北海道医療大のWR小池知成主将（歯学部歯学科）も「1年生たちに試合経験を積ませたい」と、合同チームにチーム再建の足がかりを探る。今年の登録選手は3年生1人、2年生2人、1年生3人の6人。大学の新型コロナウイルス対策で勧誘が制約され、7月中旬からは活動も中断。今月28日からようやく再開できる見通しになったが、練習不足から9月4日の初戦はサイドラインからの参加になりそう。「9月25日の第2戦に何とか参加したい。来年につなげるためにも」と熱望する。

東京・開成高ではバスケットボール部。3年間のハンガリー留学をへて北海道医療大に入学し、「カッコイイ」とアメフト部に入った。1年生の2020年、コロナ禍で医療大は選手権を棄権。昨年も実戦は、敗退したトーナメント初戦の東京農業大戦と最終節の交流戦のみ。少ない試合機会ながら、東京農業大戦では20ヤードキャッチ、交流戦ではTDキャッチも決めた。「バスケット仕込みのフェイントと、DBを振り切る脚力がある」と胸を張る。今季からはQBを務めることも。「合同チームでTDパスを投げたい」とひそかな夢も打ち明けた。



札幌学院大のOL/DL市村脩渡主将（経済学部経済学科）は富良野高ラグビー部仕込みの当たりの強さと動きの良さで、攻守両面での大暴れを決意する。かつて東日本大学王座に輝いたこともある名門も、部員不足で昨年は選手権を棄権し、14年ぶりの2部降格。今年は1年生3人を含む9人を選手登録し、再建の一步を踏み出す。「北星学園大と合同チームで出場した春のオープン戦2試合でQBサックを2回決めた」と手ごたえを強く感じている。

4校の合同チームでは主導的な役割を務めることになる札幌学院大。「合同を感じさせない結束を。2試合とも室蘭工業大を圧倒したい」と意気込む。「TDを先に取り、守備は自分を中心に失点しない。各チームの持ち味を生かしたい」とゲームプランを描く。NFLスティーラーズのDEワットにあこがれる。「北海道の

ワットに」が目標だ。

札幌大のRB/DB小金龍東主将（法学部地域協創学群法学専攻）は恵庭北高ワンダーフォーゲル部出身。アメフトに興味があり、練習を見学に訪れたのが入部のきっかけ。道学生選手権で第1回から4連覇した古豪も、2019年は人数不足で1部最下位に終わり、入れ替え戦で室蘭工業大に敗れた。1年生の小金も試合にかり出されたが「北海学園大と北海道大に100点ゲーム。けが人が出て8人でプレーしたこともあった。とにかくつらかった」と振り返る。

2020年、21年と選手権を棄権し、交流戦のみの参加に。今年はずいに部員が1人になった。「アメフトを辞めようとは思わなかった。誰かがやらなきゃならないから」と練習を重ね、今年7月のオープン戦では北海道科学大と合同チームでTDランも決めた。「4校の合同チームでもTDを狙う。公式戦での札幌大選手のTDはしばらく出ていないから」と決意する。好きな言葉は「一日一成長」。古豪の意地を学生生活最後の舞台にぶつけるつもりだ。

